

2. 同門会長ご挨拶

産業医科大学第2内科学同門会 会長 福本 晃雄



教室便りの御発刊、誠におめでとうございます。

今やいろんな業界でも職種を超えた交流や連携なしには成り立たなくなっています。それだけに何処からも何かと存在を明らかにしようとする発信がなされています。今回の教室企画が教室活性化の趣旨であっても教室情報が同門諸氏にも流れる仕組みをつくっていただけたことは同門の我々にとってもありがたいこと

です。

私自身、教室情報に疎くなっています。勤務先院内に閉じこもることが多くなったからです。それも職務上仕方のないこととはいえ、小生の情報源の一つであった学会参加がめっきり少なくなっています。時折学会会場に行って同門の方や旧知の方にお会いすると、それだけで何かしら気分がよくなります。これは他では得難い喜びです。

今春も学会会場で我が尾辻教授のお姿を垣間見ることができました。教授が手馴れた英語で討論されていると、頼もしさが伝わってきます。教室員にとっても大きな刺激になることでしょう。都合をつけて出席した甲斐があったと思います。

そんなちょっとした出会いは他にもあります。旧知の一人に延吉正清先生がいます。その昔、博多から夜行列車あさかぜで上京の途につきますと、先生は小倉から一人で乗り込んで合流され、共に目指したのが日本心臓病学会の前身、臨床心音図学会でした。それから数年、先生は方向を変えられましたが稀に会う酒席にあっては瞬く間に眠り込んでおられました。

また、最近の出会いのひとつに岩尾総一郎先生がいます。産業医大創設のころ、産業医大公衆衛生教室に若手リーダーとして赴任されたのを機に私とは食事と健康について討議した仲間のお一人でした。先生は一期生を送り出した後は厚生省へ転じられ、瞬く間に医政局長として医療政策立案に辣腕を振るわれました。そのためか先生は1983年以降の医療費亡国論の流れでの将来医師数予測で、医学部学生数抑制を答申した官僚のお一人とみなされました。一方、エイズ結核感染課長として結核やエイズの治療指針に関与されました。その後はWHOへ転じられたとお聞きしていたところ、思いがけなくも今春、私の現在属する系列大学院へこられ再会となりました。過去の医師数予測政策立案の誤りに率直で、現在では高齢者終末医療に重大な関心と発言力を発揮されつつあり、それに携わる小生と意見交換ができそうで今後益々刺激的となりそうです。これもふとした出会いのお陰と感謝しています。

新企画の教室情報は、同門の方々への波及効果が出て今後の思いがけない出会いの架け橋となるやもしれません。楽しみにしています。

(2008. 04. 26)